

# 暮らしの中の生きものたち

## 鶺鴒

このコーナーでは身近でなじみ深い生きものたちを紹介しています



**カワウ**  
近年ふえた。河川では冬に多くなる。

『日野市の野鳥』より

すっかり聞き慣れた「手洗いうがい」。そのうがいの語源の一説として「鶺鴒 嗽也」（『下学集』1444）とあることに、私たちのなじみ深さを感じさせられます。

鴨川でもよく見かけるようになったカワウは世界に6亜種が知られ、日本のカワウは、列島と周辺（サハリン、韓国、台湾）の河川や内湾に広く見られる留鳥です。縄文時代の遺跡からは食べられていたことがわかり、1946年まで狩猟も行われていました。

それが、高度成長期の干潟や海辺の埋め立てと、化学物質（ダイオキシン、DDT、PCBなど）による河川の汚染によって激減し、1970年代には3千羽以下という絶滅危惧に近い状況に陥っていたのです（カワウは生態系の高次捕食者であるため、99年の調査でも成鳥から検出されたダイオキシンは依然、魚の1万6千倍もあり、懸念されている）。

1980年代に入って、コロニーが保護され化学物質が規制されると、カワウたちは徐々に増加に転じます。「フン害」が起きたとコロニーを壊す作業（花火、放水、営巣木伐採など）が行われると、もともと季節移動をするカワウたちは拡散、より全国に広がりました。1990年代は、カワウが急増を見た10年間です（河川改修で餌とする魚の隠れ場所が減ったこと、魚の放流なども増加の理由になったとされる）。そして、漁業への「食害」が重なると、駆除ができるように狩猟鳥にも指定されました（2007年）。

しかし、もともと全国（北海道では夏鳥、近年は繁殖も見られる）に分布していた野鳥です。そんな問題はなかったのでしょうか。

かつては、コロニーの木の下に藁を敷いてフンを集めて、大切な肥料にしていたといいます。愛知県知多半島には、採取権を入札にかけて得られた収益を地区で活用した記録まであります。フンで弱った木も伐採して換金し、その跡には植樹をして、採糞地のコロニーを保っていました。

そして、ウ類を使う漁は、アジア一帯に広がる生活文化でした。日本列島でも古墳時代の埴輪に鶺鴒のウを象ったものがあったり、7世紀初めの『隋書』で倭を訪れた隋使が“輪を鶺鴒にかけて日に百匹の魚を捕る漁法”を報告していたり、『古事記』『日本書紀』のほか、古典文学でも『万葉集』『源氏物語』から時代を通して記されていたり、織田信長の鶺鴒い好きが知られたりしています。

再び増えたカワウが「害鳥」のようになったことは、現代の「獣害」と共通する“野生動物と共存する文化の消失”なのでしょう。現在、限られた川で伝承されている鶺鴒いのそのウも、もうカワウではありません。「徒歩鶺鴒い」より舟を使う「舟鶺鴒い」が盛んになって、やや大きくて温厚なウミウが好まれるようになったためと考えられています。

岩礁海岸に暮らすウミウは、新潟県の粟島などで局地的に繁殖しますが、多くは、南西諸島までの広い海岸域に越冬にやってくる渡り鳥です。渡りの通過地点である茨城県日立市の伊浜海岸の断崖に、現在、唯一許可されている捕獲場があり、生け捕りにされた若いウミウが、鶺鴒いが継承されている11箇所の川に供給されています。野生では、ウミウは海を深く潜ってイワシ、イカナゴ、底魚のカレイなどを、カワウは浅い海でコノシロなどを、川でコイ、フナ、ウグイなどの川魚を食べているそうです（『これは No.1 食べるって楽しい』）。

この夏、森の子クラブで「嵐山鶺鴒い」を見学しました。以下、ウミウたちの活躍に心躍らせた一幕です。

上流に待機していた鶺鴒舟が動き出すと5羽のウが一斉に飛び込み、手縄で舟を曳きながら近づいてきました。

見物船の間際にくると次々と潜り始め、鶺鴒さんの「おらんか、おらんかー」「みえんか、みえんかー」の掛け声に、私たちは何度も水面に出ては潜り出ては潜りを繰り返します。見物船からは「どんといけ、どんといけ」（どにアクセント）と応じました。

ようやく魚を捕ったウが鶺鴒さんに手繰り寄せられて抱きかかえられると、「ほれ、とった」と見物船の船頭さん、鶺鴒舟にウが上げられると、「さぁ、飛ぶよ」と鶺鴒さん、すると、ウの口から魚が飛び出し、宙を舞いました。

一頻り終わると私たちは順番に舟の舳先へと飛び乗り、並んで一休み。位置取りには順位があるということでした。それからまた飛び込んで、下流から上流へ向かってもう一度。間近にできた鶺鴒いは、私たちの表情まで見えるようでした。



ウミウに手縄をつける作業  
写真はいずれも2021.8.3  
大堰川にて



川に飛び込み舟を曳くウミウたち  
鶺鴒舟の上には、  
鶺鴒匠、中乗り、舳乗り



鶺鴒いの様子  
鶺鴒匠はウミウを操り、  
上に向かって魚を吐かせる